

長野県木曾青峰高等学校 平成30年度第2回学校評議員会 記録

日時 平成31年2月28日(木) 午後3時00分から午後4時40分

場所 木曾青峰高等学校同窓会館

出席者 学校評議員 同窓会長・PTA会長・定時制教育振興会長・日義小中学校長
前南木曾町中学校長・木曾町区長会長
学校職員 校長・全日制教頭・定時制教頭・全日制教務主任・定時制教務主任
進路指導主事・生徒指導主事・1学年主任・2学年主任・3学年主任
理数科主任・森林環境科主任・インテリア科主任

1 開会

2 学校長挨拶

3 学校からの報告

4 学校評議員からの質問・意見・要望等

(評議員) 研究発表の場において、高校生のプレゼン力(発表能力)が高まっているという印象を受けた。日頃の学習の成果であり、生徒の成長を実感でき、地域住民として感謝している。

大学入試改革で英語は外部試験が導入されるが、受験料・受験会場までの交通費など保護者の負担は大きく、地域的に不利ではないか。また、授業は外部検定に合わせる形にはしてほしくない。入学希望者の減小をどのように考えれば良いか。

(評議員) 進学を希望する生徒が、道筋が見えず不安を感じて理数科を避けているのではないか。進学実績はどうなのか。

■郡外への流出は昨年度より増えている。受検生がどのように考えているか知りたい気持ちはある。理数科で、目標を持って最後まで頑張った生徒の中には、自分の夢をかなえている者もある。学校としても実績を残せるように努力を続けたい。

(評議員) 磨きをかければ伸びる生徒はたくさんいる。これからの地域を担っていくわけなので、学習に励んでほしい。

(評議員) 自分たちの成果が実感できるように、広報活動を積極的に行うとよい。地域にアピールして、努力している姿やその成果を見せることが大切である。

(評議員) 地元の企業説明会を全学科対象にして行ってほしい。

■次年度は、蘇南高校と合同という形で、全学科対象に行う計画を立てている。

(評議員) 課題研究などで仲間とつながり、コミュニケーション能力も伸びているように感じる。就職で地元に残ってくれる生徒もいて、嬉しく思う。

(評議員) 木曾町の文化交流センターで、試験勉強をしている木曾青峰生に出会った。充実した高校生活を送っている様子で嬉しく思った。

自分の将来ビジョンを描いている中学3年生が木曾青峰高校を受検し、希望学科に合格した。本人はもちろん、家族の喜びも大きく、夢をかなえるために入学してくることだろう。

高校は、偏差値ではなく、「誰と出会うか」だと思った。高校生活の価値は、どんな人とどんなつながりを持つかが大切だと思う。

5 終わりの挨拶(校長)

6 閉会